



可溶性 IL-2 receptor 正常のびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の臨床的特徴

2011年1月1日から2023年7月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にてびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫（中枢神経原発悪性リンパ腫、縦隔原発大細胞型 B 細胞性リンパ腫含む）の診断を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「可溶性 IL-2 receptor 正常のびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の臨床的特徴」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2011年1月1日より2023年7月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にてびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫(以下 DLBCL) の診断を受けた患者さんの特徴を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：可溶性 IL-2 receptor 正常のびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の臨床的特徴

研究期間：研究実施許可日～2026年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 血液内科 永田 安伸

(2) 研究の意義、目的について

DLBCL は血液疾患の中でも頻度が高く、多くの患者さんがなりうる病気です。診断には病変部位からの生検が必要ですが、時に生検が困難な場合があり、腫瘍マーカーである可溶性 IL2 receptor (以下 sIL2R) を診断の参考にしばしば用いています。sIL2R は腫瘍量が多いと高値を示すことが多く、病変が小さい場合は正常なことも多いのですが時に腫瘍が大きいかに関わらず sIL2R が正常な症例が存在します。腫瘍量が多いにも関わらず sIL2R が正常な症例の特徴を明らかにすることを目的といたします。腫瘍量が多いにも関わらず、sIL2R が正常な DLBCL の特徴が明らかになれば DLBCL の診断がよりやり易くなる可能性があります。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2011年1月1日より2023年7月31日までに日本医科大学付属病院血液内科にて、DLBCL の診断を受けた患者さんの臨床的特徴を解析します。診断時に十分な情報が得られなかった患者さんは除外いたします。その他、治療成績の検討も行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：特に用いません。

情報：年齢、性別、Performance status (患者さんの元気さの指標)、sIL2R、治療開始日、寛解日、再発日、最終転帰日、全生存期間、非再発生存期間、転帰、診断時 LDH、NCCN-IPI、クリニカルステージ: Ann-Arbor 分類、病変部位、組織型、最大腫瘍径、腫瘍体積、LDH、CD25 及び c-myc の発現有無、治療内容、病理学的評価等。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 血液内科 助教・医員 丸毛 淳史

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL: 03-3822-2131、FAX: 03-5685-1793

e-mail: a.agassinms@nms.ac.jp